

第5回火山噴火予知研究シンポジウム

日時：平成19年5月29日13時30分～5月30日15時30分

場所：東京大学 理学部1号館 小柴ホール

あいさつ

噴火予知シンポジウムの開催にあたって

日本火山学会 会長 藤井敏嗣

1. 基調講演 (5月29日 13時40分～14時20分)

第7次噴火予知計画の現状の問題点

- 狙い, 成果と問題点 -

京都大学防災研究所 石原和弘

2. 第7次火山噴火予知計画の成果と課題 (5月29日 14時30分～18時)

2000年三宅島の噴火活動 - 地球物理観測の視点から

防災科学技術研究所 鶴川元雄

2000年三宅島の噴火活動 - 火山ガス研究の進歩

産業技術総合研究所 篠原宏志

2004年浅間山の噴火活動 - 地球物理観測の視点から

東京大学地震研究所 武尾実

富士山の不思議はどこまで分かったか

東京大学地震研究所 渡辺秀文

防災対応を踏まえて区分した火山の新しいレベル

気象庁火山課長 横田崇

懇親会

5月29日 18時から, 東京大学・山上会館・地下会議室

(シンポジウム会場から徒歩3分)

3. 火山噴火予知研究の展望 - 来るべき噴火に備えて (5月30日 9時～12時30分)

今後桜島において予測される噴火とその予知戦略

京都大学防災研究所 井口正人

火山噴火モデルの構築に向けて

東北大学理学研究科 西村太志

噴火予知の高度化に向けて地殻変動観測は今後何をめざすべきか

- 多項目観測の統合化と動的マグマ移動モデルへの挑戦 -

国土地理院 村上亮

これからの火山体構造探査

秋田大学工学資源学部 筒井智樹

コメント: 噴火予知研究で電磁気観測をどう使うか

北海道大学理学研究院 橋本武志

コメント: 構造探査と物質科学の狭間から

北海道大学理学研究院 大島弘光

掘削による噴火活動に関する知見の深化

東京大学地震研究所

中田節也

中長期の噴火予知への新たな挑戦 - 物質科学の視点から

北海道大学理学研究院

中川光弘

噴火に至るまでの現象の把握を目指して

東京大学地震研究所

森田裕一

4. 火山噴火予知の高度化をめざして (5月30日 13時30分~15時30分)

基調講演: 噴火予知はどのような局面で社会の期待に応えきれていないか

京都大学理学研究科

鍵山恒臣

コメント:

行政が求める「高度な噴火予知情報」とは

鹿児島県危機管理局

中西茂

社会が求める「高度な火山噴火情報」とは

時事通信社防災リスクマネジメント

WEB編集長

中川和之

わかりやすい火山情報の発表を目指して

気象庁火山対策官

北川貞之

「高度な火山噴火予知」には学術的に何が必要か

東京大学地震研究所

藤井敏嗣

火山噴火予知研究体制の問題点

東京工業大学理学研究科

平林順一

パネルディスカッション「火山噴火予知のさらなる高度化をめざして」

司会 :

九州大学理学研究院

清水洋

パネリスト: 鍵山恒臣, 中西茂, 中川和之, 北川貞之, 藤井敏嗣, 平林順一

5. 閉会の挨拶

地震・火山噴火予知協議会 火山分科会 議長

平林順一

会場案内

会場の小柴ホールは東京大学理学部1号館2階にあります。

営団地下鉄「東大前」から徒歩10分

「本郷三丁目」から徒歩10分

「根津」から徒歩10分

都営バス「東大正門前」から徒歩5分

